

平成16年度第3四半期までの 生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについて

平成16年6月21日

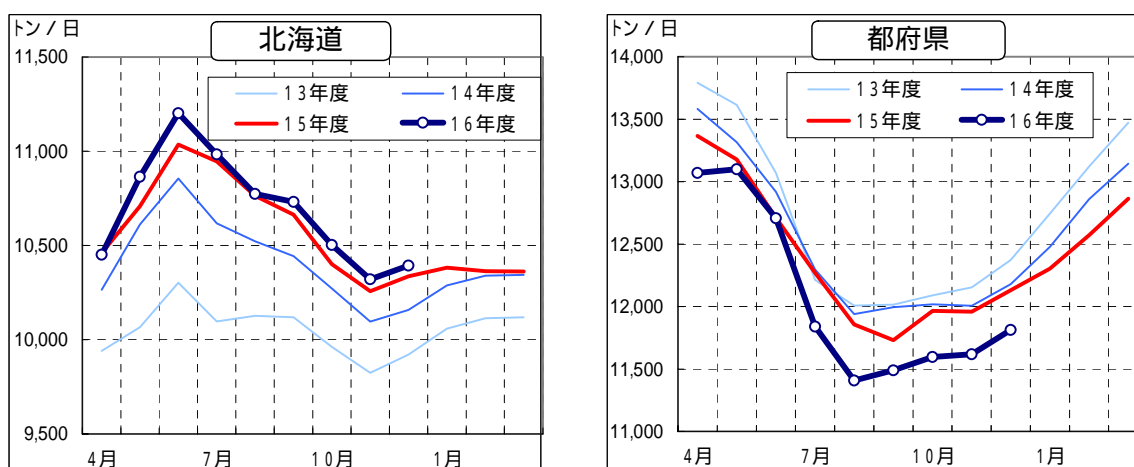
第2回需給・取引専門部会

- 本文中の数値は気温が「平年並」の場合を表しており、小文字が付されている項目は気温により幅が出るもので、左側が平年値より「低め」、右側が「高め」の場合を表す。なお、気温による変化が予測値で確認されない場合は、記載していない。
- 牛乳乳製品統計（農林水産省）の「飲用牛乳等生産量」のカテゴリ変更等により、15年4月以降の、「牛乳」「加工乳・成分調整牛乳」「牛乳等向け生乳処理量」等の生産量が修正されている（統計上で増加）。このため、13・14年度の実績との整合性はやや欠けるが、月別の傾向をみるうえで必要と判断し、グラフ上では同列に表示した。

1. 生乳生産量及び生乳供給量

(1) 生乳生産量

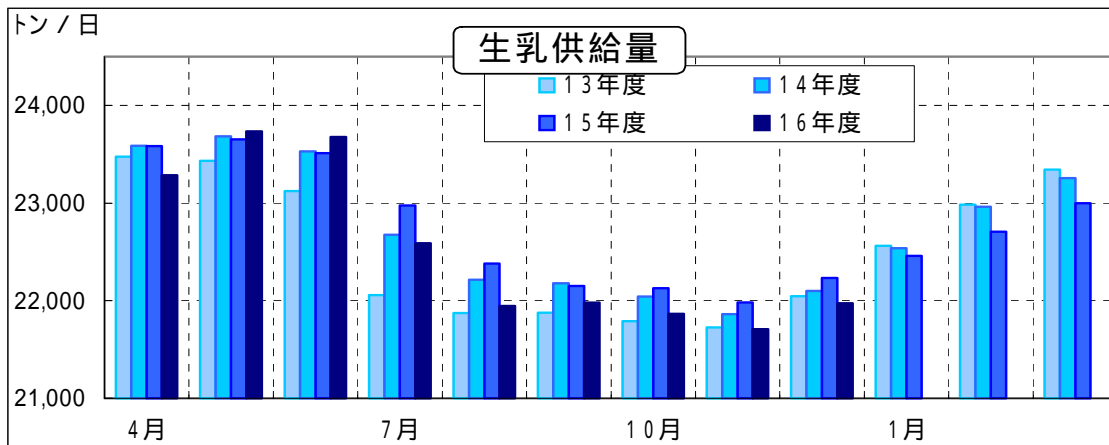
図1 生乳生産量（日均量） 気温：平年値



- 北海道では、伸び率はやや縮小するものの、引き続き前年を上回って推移し、第1四半期 986 千トﾝ (101.0%)、第2四半期 996 千トﾝ (100.4%)、999～993 千トﾝ (100.6～100.0%)、第3四半期 957 千トﾝ (100.7%) と見通される。
- 都府県では、引き続き前年を下回って推移し、第1四半期 1,179 千トﾝ (99.0%)、1,180～1,178 千トﾝ (99.1～98.9%)、第2四半期 1,065 千トﾝ (96.9%)、1,073～1,058 千トﾝ (97.6～96.2%)、第3四半期 1,074 千トﾝ (97.2%)、1,074～1,074 千トﾝ (97.2～97.1%) と見通される。

(2) 生乳供給量

図2 生乳供給量（全国） 気温：平年値

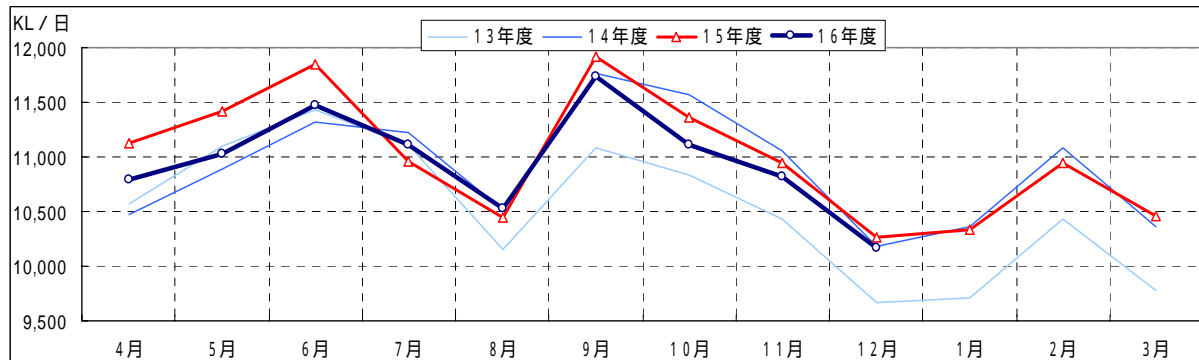


自家消費量は、地域別の前年度の平均伸び率が継続されると仮定した。

- 全国の生乳供給量は、第1四半期は2,145千トン(99.9%)2,145~2,144千トン(100.0~99.9%)、第2四半期には2,040千トン(98.5%)2,050~2,029千トン(99.0~98.0%)、第3四半期には2,010千トン(98.8%)と前年を下回ると見通される。

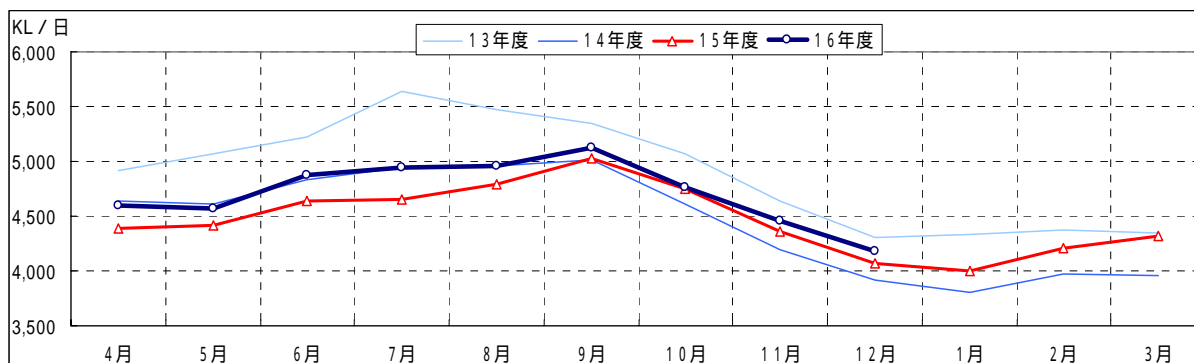
2 . 牛乳等の需要量

図3 牛乳の需要量（日均量） 気温：平年値



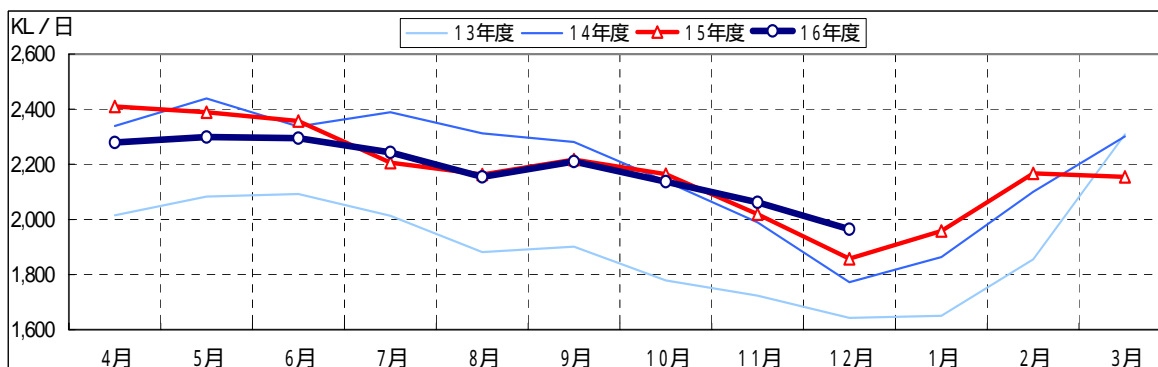
- 牛乳の消費は、4・5月の気温が平年よりも高めであったものの、総じて低調であった。従来の漸減傾向に回帰すると考えられ、第1四半期1,010千KL(96.8%)1,007~1,013千KL(96.5~97.1%)、第2四半期1,023千KL(100.1%)1,009~1,034千KL(98.8~101.3%)、第3四半期985千KL(98.6%)981~989千KL(98.2~99.0%)と見通される。
- 第2四半期は、15年度冷夏の反動で横ばいとなるが、その他の時期は前年を下回ると推察される。

図4 加工乳・成分調整牛乳及び乳飲料の需要量（日均量） 気温：平年値



- 加工乳・成分調整牛乳及び乳飲料は、回復基調に転じ、合計値では第1四半期 426千KL(104.5%)、425~427千KL(104.2~104.8%)、第2四半期 461千KL(103.8%)、455~466千KL(102.5~104.9%)、第3四半期 411千KL(101.7%)、410~413千KL(101.4~102.1%)と、前年を上回って推移すると見通される。

図5 はっ酵乳の需要量（日均量） 気温：平年値



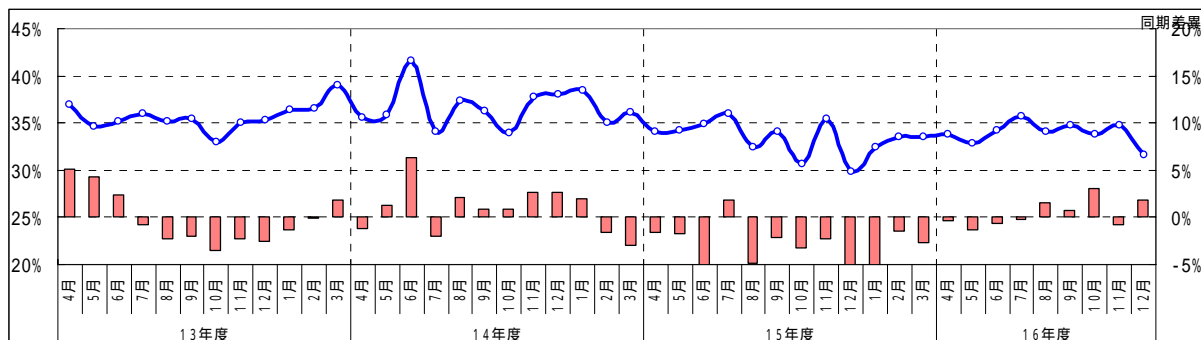
- はっ酵乳は、第1四半期 209千KL(96.0%)、208~209千KL(95.9~96.2%)、第2四半期 203千KL(100.3%)、201~204千KL(99.7~100.9%)、第3四半期 189千KL(102.0%)、189~189千KL(101.9~102.3%)と、前年との関係で伸び率は上下するが、全体としては、概ね前年並程度の水準で推移すると見通される。

3. 用途別生乳処理量

(1) 牛乳等向け生乳処理量

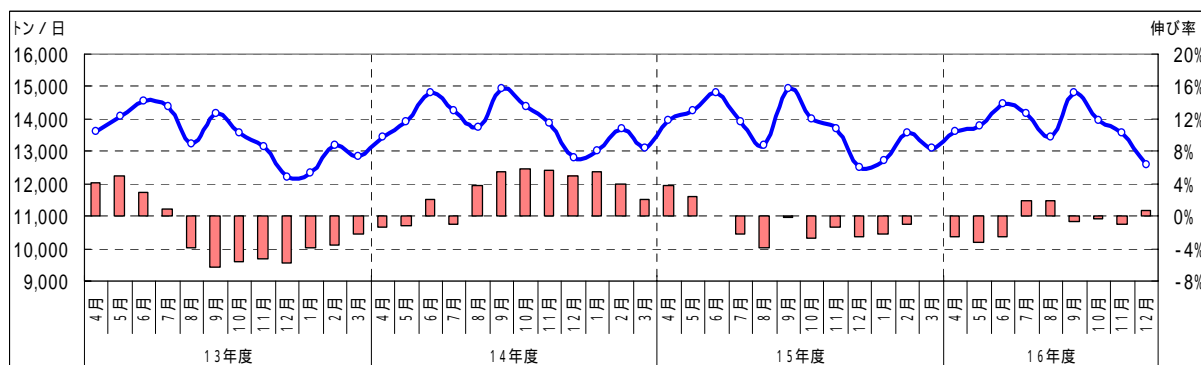
牛乳、加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の需要量を基に、比重(1.032)及び歩留り(99.5%)で算出。更に、加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳には生乳使用率を乗じて算出。

図6 生乳使用率の推移



加工乳・成分調整牛乳、乳飲料等の生乳使用率は、過去4年間の平均的な月別推移が、4月以降も継続されると仮定し算出。

図7 牛乳等向け生乳処理量(日均量) 気温: 平年値

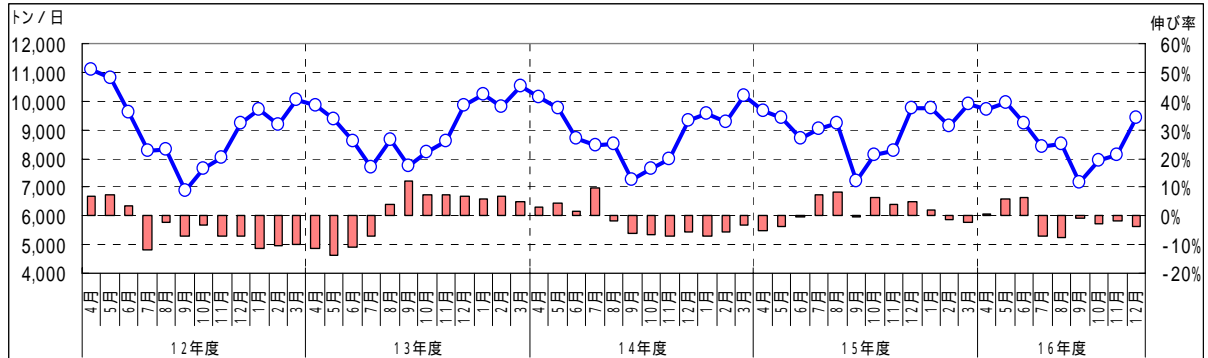


- 牛乳等向け生乳処理量は、15年度冷夏の反動及び加工乳・成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の需要増の影響を受け、第1四半期1,269千ト(97.2%)、1,265~1,273千ト(97.0~97.6%)、第2四半期1,301千ト(101.0%)、1,284~1,316千ト(99.7~102.1%)、第3四半期1,229千ト(99.8%)、1,225~1,234千ト(99.5~100.2%)と見通される。

(2) 乳製品向け生乳処理量

乳製品向け生乳処理量は、生乳供給量から飲用牛乳等向け生乳処理量を差し引いた残余として算出。

図8 乳製品向け生乳処理量（日均量） 気温：平年値



- 乳製品向け生乳処理量は、第1四半期 876千トﾝ（104.1%）880～871千トﾝ（104.6～103.5%）、第2四半期 739千トﾝ（94.5%）766～713千トﾝ（97.9～91.1%）、第3四半期 781千トﾝ（97.2%）785～776千トﾝ（97.8～96.6%）と見通される。

4. 脱脂粉乳及びバター の需給

図9 脱脂粉乳の製造係数

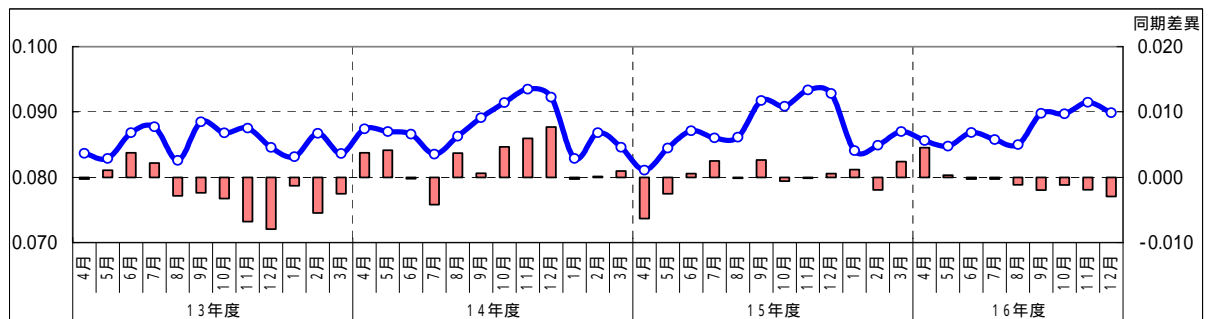
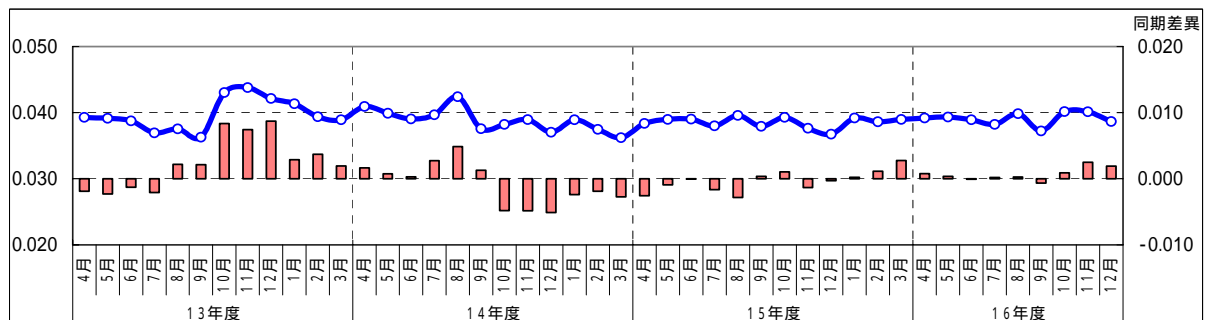


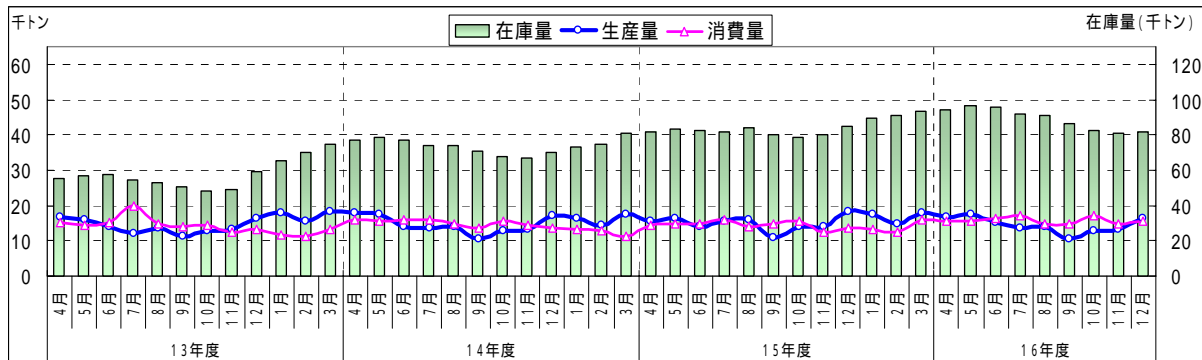
図10 バターの製造係数



製造係数は、過去3年間の平均値を使用。

(1) 脱脂粉乳の需給状況

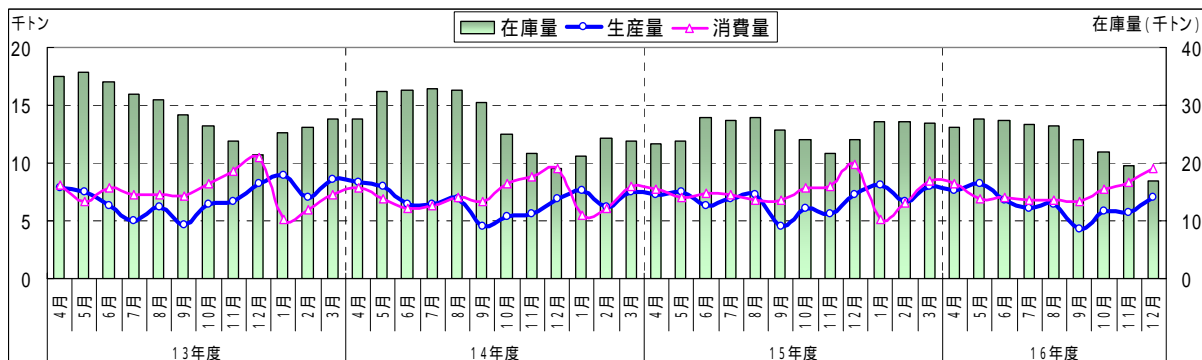
図 1 1 脱脂粉乳の生産・需要・在庫量の推移 気温：平年値



- 脱脂粉乳の生産量は、特定乳製品向生乳処理量の推移と並行し、第 1 四半期 49.5 千トン(108.3%)、49.9~49.0 千トン(109.2~107.3%)、第 2 四半期 37.9 千トン(89.2%)、40.2~35.6 千トン(94.7~83.9%)、第 3 四半期 42.5 千トン(91.7%)、42.9~42.0 千トン(92.6~90.8%)と見通される。
- 脱脂粉乳の消費量は、加工乳・乳飲料等が増加傾向にあり、また、16 年度の脱脂粉乳過剰在庫対策(年間 2 万トン程度)等による使用量増加が期待される。
- 4 月の消費量は前年対比で約 9% の増加を示しており、在庫対策が需要増に相当程度貢献していると考えられる。4 月の基調を勘案した消費量は、第 1 四半期 47.3 千トン(107.9%)、第 2 四半期 46.6 千トン(103.8%)、46.4~46.7 千トン(103.4~104.2%)、第 3 四半期 47.6 千トン(114.2%)、47.6~47.7 千トン(114.1~114.3%)と見通され、引き続き在庫対策の着実な取り組みが求められる。

(2) バターの需給状況

図 1 2 バターの生産・需要・在庫量の推移 気温：平年値



- バターの生産量は、第 1 四半期 22.6 千トン(107.4%)、22.8~22.4 千トン(108.2~106.4%)、第 2 四半期 16.9 千トン(90.1%)、17.9~15.9 千トン(95.7~84.7%)、第 3 四

半期 18.6 千ト (98.2%) 18.8~18.4 千ト(99.2~97.2%)と見通される。

- バターの消費量は、第 1 四半期 22.1 千ト (99.3%)、第 2 四半期 20.3 千ト (97.2%)、第 3 四半期 25.6 千ト (99.6%) と見通される。
- なお、カレントアクセスに対応した輸入バターは、現状では売渡時期等が未定であるので、見通しには織り込んでいないが、15 年度の繰越分が約 3.9 千ト、16 年度義務輸入分が約 8.6 千トある。

5 . 都府県の生乳需給

飲用牛乳等向は、北海道の飲用牛乳等向生乳量を予測し全国の数値から差し引くことで算出。

乳製品向は、需要期の特定乳製品向について、近年の各月実績の最低水準及び牛乳等向生乳の安定供給可能な水準で設定し、その他乳製品向については現在の伸び率で設定。

北海道からの移入必要量については、ブランド対応分として日均 1 千トを前提とし算出。

表 1 都府県の生乳需給 (16 年度) 気温：平年値

	生乳供給量 A		牛乳等向 B		その他乳製品向 C		A - B - C	移入量 (必要量)		特定乳製品向	
		前年比		前年比		前年比			前年比		前年比
4 月	388	97.8%	366	96.8%	14	76.6%	8	31	91.9%	38	112.3%
5 月	402	99.4%	386	96.3%	18	98.7%	-2	35	82.9%	33	120.1%
6 月	377	100.0%	391	97.2%	15	98.6%	-29	42	82.0%	13	120.2%
7 月	363	96.5%	394	101.7%	20	98.9%	-52	62	107.7%	10	39.9%
8 月	350	96.2%	373	101.5%	17	98.7%	-40	54	117.5%	15	57.8%
9 月	341	97.9%	400	99.2%	12	98.4%	-71	74	103.1%	3	67.2%
10 月	355	96.9%	389	99.1%	14	98.6%	-48	53	99.3%	5	39.2%
11 月	345	97.2%	365	98.8%	14	98.4%	-35	43	103.4%	8	66.8%
12 月	362	97.4%	348	100.3%	17	98.1%	-3	35	108.4%	32	80.8%

- 需要期の特定乳製品向を近年の最低水準とした前提で、北海道からの搬入必要量(必要量)を試算すると、現状の基調では、9 月は 74 千ト(気温低め：69 千ト、気温高め：80 千ト)と算出される。現時点では、生乳供給・牛乳等向け需要ともに不透明ではあるが、今後の動向に注視しつつ、気温の変化や特定乳製品向処理量を勘案した準備が必要と考えられる。

以上